

日本化薬グループは、企業ビジョンである**KAYAKU spirit** 「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現するための企業活動としてCSR経営を行っています。事業活動と連動した中期CSRアクションプランをご紹介します。

中期 CSR アクションプラン

日本化薬グループでは、2016年4月1日より開始している3カ年中期事業計画 **Take a New Step 2016** <創立100周年を迎え、社員全員で新たな一歩を着実に踏み出そう> と連動させた中期CSRアクションプラン2016-2018を策定しました。

中期事業ビジョンである「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続ける」を4つの事業を通じて実現し、持続可能な社会・環境に貢献しながら、いい会社・強い会社を目指します。これは、管理部門を含む各事業部と各連結グループ会社から届いた400件以上のアクションプランを整理し17項目に取りまとめたグループ総意としての中期CSRアクションプランです。



各アクションプランの詳細は次の「中期CSRアクションプラン2016-2018」表をご覧ください。また、図中の数字は、アクションプランの項目と一致しています。

中期 CSR アクションプラン 2016-2018 と CSR アクションプラン 2016

中期 CSR アクションプラン 2013-2015 の結果と 2015 年度 CSR アクションプランの結果

Challenge 100 A ! 中期CSRアクションプラン2013-2015の3年間の取り組み結果と自己評価および2015年度CSRアクションプランの取り組み結果と自己評価をまとめました。

中期CSRアクションプラン2013-2015 3年間の結果

Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン2013-2015 評価

<評価の仕方> 充分に目標を達成：★★★ ほぼ目標を達成：★★☆ 実現に向け努力中：★☆☆ 目標未達：☆☆☆

| 分類 No. | Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン | Challenge 100B ! 中期CSRアクションプラン2013-2015 の取り組み結果(指標は3年間の延べ回数) | 自己評価 |
|--------|---|---|------|
| 環境 | 1 従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる | ● C5 研修：グループ全体で66回、1,000人以上が受講 ● コンプライアンス研修：年度ごとにテーマを変え、グループ全体で166回、9,600人が受講 ● 契約締結と発注時のCSRとコンプライアンス意識調査を実施 | ★★★ |
| | 2 有害発生時においても事業継続性を確保する | ● 医薬事業本部、セーフティシステム工業事業本部、アプロ事業部でBCP訓練を実施し、より実効性のあるBCPマニュアルを整備 ● ITマニュアルを整備し、ITシステムの脆弱性調査、自然災害対策導入による可用性、復旧性の確保、バックアップの信頼性の確保によるデータの保護を実施 | ★★☆ |
| | 3 化学物質に関する規制を遵守する | ● 化学物質管理データベース等の仕組みを整備し、確実な運用を確保、届出しの義務を実施 ● 化学法規制に関わる最大の違反：ゼロ件 | ★★★ |
| | 4 人と人、組織分野における研究開発、製品開発活動により社会に貢献し続ける | ● マイクロスフィアを2製品上市し、NDRお客様の幅を広げ自社の選択範囲を広げることと貢献 ● 人と人、組織分野における研究開発、製品開発活動により社会に貢献し続ける | ★★☆ |
| | 5 従業員の必要知識や意欲に関するスキル、知識の習得を促進する | ● 123人に計画通り研修を実施し、人事課取り扱に関するスキル、知識の習得を促進 | ★★☆ |
| | 6 重要顧客獲得のための販売活動を継続実施する | ● 販路員：各担当者が担当地域で実施、条件に応じて状況による大きな違反や事故：ゼロ | ★★★ |
| | 7 サプライヤーと連携したCSR推進を推進する | ● 購買課：購買基本方針、CSR調達ガイドラインを定めたCSR調達ガイドブックを制定、公開 ● 完成済品、品質確保の観点からサプライヤーと協働の関係を築き取り協力を推進 | ★★★ |
| | 8 重要顧客に対する受注改善や顧客満足度を向上させる | ● 重要顧客に対する受注改善、リスクマネジメント、セザリハット、品質保証など顧客の取り組みを継続して実施 ● 重要顧客満足：77点、改善計画：5件 | ★★☆ |
| | 9 重要顧客、品質工程員等を支援する | ● 日本化薬向け分注マニュアルを作成、各工場、海外グループ会社へ展開し、現場の働き方を強化 ● 重要フレーム：4件、重要工程員：4件 | ★★☆ |
| | 10 地域社会とのコミュニケーションを行う | ● あすなるの家：毎年100名を超える家族が利用 ● 子どもの権利活動、工場、地域活動などを継続して実施 ● 重要顧客のイベント等により、各事業場での協働活動を実施 | ★★★ |
| 社会 | 11 ステークホルダーに対して透明な情報開示を行う | ● アニュアルレポート、CSRレポート、Webサイトなど必要な情報を適時開示 ● グループ方針資料を開発、深掘り、90%導入率、早期開示など適正開示と透明性を向上 | ★★☆ |
| | 12 多様な人材を確保・育成する | ● 女性活躍推進活動を行う、取組の進捗を年次報告書の重要事項として開示 ● 重要顧客満足、修正率改善(リポート、高齢者、若手研修)の適正開示を推進、各層は正開示やへ対応 ● グローバル人材の交流、育成を推進 | ★★★ |
| | 13 従業員の安全と健康と生活へのワーク・ライフ・バランスの取れた働き方を提供する | ● メンタルヘルス、健康情報の提供と働き、ストレスチェックの実施体制を整備 ● ワーク・ライフ・バランスの向上、健康経営の推進を向上、健康経営の推進を向上、健康経営の推進を向上 | ★★☆ |
| | 14 人と人、組織分野における研究開発、製品開発活動により社会に貢献し続ける | ● コンプライアンス研修を実施して人権、プライバシーの意識を向上 ● 情報開示制度の周知と浸透を図り、情報開示については、迅速に適切に（グループ全体の認知度：約90%） | ★★★ |
| | 15 リーン生産比率の向上を図る | ● 開採材料ロス率の改善等に努め、環境負荷に配慮した開採材の輸入比率改善：8%削減 | ★★☆ |
| | 16 環境への配慮し、中期環境目標を達成する | ● 中期環境目標(2020年度)の達成に向け、各事業場での取り組みを継続して実施 ● 一部の項目は未達（毎年データはウェブサイトに掲載） | ★★☆ |
| | 17 廃棄物処理率を向上させ、環境規制に対応する | ● 活性汚濁処理の効率アップ、特定重金属除去技術などの廃棄物処理技術を開発 | ★★☆ |
| | 18 エネルギー効率を向上させる | ● 省エネ設備や省エネ設備導入を計画的に実施 ● エネルギー効率向上率向上の向上と達成 | ★★☆ |
| | 19 持続可能な生産グループとして認定される | ● グループ全体へ中長期環境目標を設定、これに基づき目標達成を導入 ● ISO14001に準拠した生産の適正開示に向けた取り組みを実施 ● 環境と社会の両面での持続可能な生産を推進 | ★★☆ |
| | 20 環境・エネルギーに貢献する製品を上市する | ● 原料フィルム(F e e l i x)はサングラス用途へ拡張、さらに対面への展開を推進。 | ★★☆ |
| 経済 | 21 経済活動を推進する高品質な製品を開発する | ● バイオ後継品2製品、ジェネシックスなどが、経済活動を推進する高品質な製品を開発し、市場に提供 | ★★☆ |
| | 22 社会貢献活動を実施し、社会的責任を果たす | ● 重要顧客を主な対象とした新製品を推進、海外拠点の能力アップにより、日本化薬のグローバルプレゼンスを強化し、 ● 世界的な社会貢献が必須とする安全製品の追加開発に対応 | ★★☆ |
| | 23 社会的責任の観点から、環境負荷を削減する | ● 各種研修、勉強会、各種研修会は計画通り実施 ● 研修員による生産技術教育を実施し、生産工場としての役割を確保、継承 ● イノベーション創出センターを開設、● 海外グループ会社と連携し2件の共同研究を推進 | ★★☆ |

★☆☆の今後の対応について
 ● …… 重要顧客が実際の作業で定まるよう改善を促す。改善事項として、個人教育や研修を実施する。
 ● …… 重要顧客向け分注マニュアルを定めて浸透させ、重要フレーム、工程員等を未然防止する。海外グループ会社へも展開する。

▶ 中期CSRアクションプラン3年間の結果 PDF

2015年度CSRアクションプランの結果

Challenge 100A! 中期CSRアクションプラン&2015年度 評価

<評価の仕方> 充分に目標を達成:★★★ ほぼ目標を達成:★★☆ 実現に向け努力中:★☆☆ 目標未達:☆☆☆

| 分類 | No. | Challenge 100A! 中期CSRアクションプラン | 2015年度CSRアクションプラン目標 | 2015年度の取り組み結果 | 自己評価 |
|--------|-----|--|---|---|------|
| 経営戦略 | 1 | 従業員へのCSRとコンプライアンスに関する意識向上を図る | グループ会社を合わせたコンプライアンス・CSR研修の総実施 | ●CSR研修: 海外グループ会社を含め36回568人に実施 ●CSR研修: 海外グループ会社を含め36回568人に実施 ●コンプライアンス研修: 海外グループ会社を含め277人 ●DVD研修を541人、半日型セミナー研修を6回206人に実施 | ★★★ |
| | 2 | 各事業会社においても事業継続性を確保する | 各事業部のBCPマニュアルの更新を行い、より実効性のあるBCPマニュアルを構築 ITマニュアルに基づく訓練による有事発生時における事業継続性を確保 | ●各事業部の訓練を実施 ●ITマニュアルは、機密シスドマニュアル式標準書(IT総論、運用編、監視編)として完成 | ★★☆ |
| | 3 | 化学物質に関する規制を遵守する | 化学物質規制に関する社内教育プログラムの充実 各事業部・施設に合わせたGHSによる労働者の保護訓練(引き続き各事業部への導入と実施) | ●化学物質規制に関する社内教育: 新入社員/中堅社員/技術部長を対象とした教育を実施 ●GHSによる保護訓練: 全国、中堅層の迄、規格への適合を図った | ★★★ |
| | 4 | 人と人、人と環境に関する研究開発: 社会課題の解決により社会に貢献し続ける | 既製品・新製品開発で社会課題を解決 日本初の抗アレルギー効果の保湿剤 | ●既製品・新製品開発: 社会課題を解決している ●日本初の抗アレルギー効果の保湿剤: 既に海外市場での発売を行うなど、販路拡大の取り組みも実施 | ★★☆ |
| | 5 | 従業員の成長機会を創出し、スキル・知識の習得を促進する | 大企業並みの研修プログラムによる高層幹部教育プログラムの実施 | ●研修: 研修者は3回20人、中上層者は1回49人に実施 | ★★☆ |
| | 6 | 高度なスキルを持つ人材の確保を積極的に行う | 高度なスキルを持つ人材の確保を積極的に行う | ●採用: 各担当者が担当領域で実用、本件に関して採用時に必要となるスキルを確保 | ★★★ |
| | 7 | サプライヤーと連携したCSR調達を実施する | サプライヤー向けにウェブサイトを通じてCSR調達を実施 実施に付いたCSR調達実施報告書を作成 | ●CSR調達: サプライヤー向けにウェブサイトを通じて実施 ●グループ会社はCSR調達の実績を報告 | ★★★ |
| | 8 | 重大事故災害による環境被害や労働災害を未然に防止する | 重大事故災害: 休業災害 0件、労働災害 5件以下、医薬品/医薬品製造及び流通施設 労働災害発生率: 4.6以下 | ●重大事故災害: 0件 ●労働災害: 5件以下、休業災害5件 ●労働災害発生率: 4.6以下 | ★★☆ |
| | 9 | 経営資源・品質向上を推進する | 重大顧客クレーム: 0件、重大工程不良: 0件 なぜなぜ分析の実施による生産力の向上とグループ会社への展開 | ●重大顧客クレーム: 0件 ●重大工程不良: 0件 ●なぜなぜ分析の実施による生産力の向上とグループ会社への展開 | ★★☆ |
| | 10 | 地域社会とのコミュニケーションを行う | 「あすなろの家」を引き続き維持運営 | ●あすなろの家: 2回実施(参加者50%) | ★★☆ |
| 社会貢献 | 11 | スターアッププログラムに対して適切な対応を実施する | ビジネス活動、公益活動、社会貢献活動、環境活動、公益活動の継続実施 | ●ビジネス活動: 10月に各事業部で実施 ●公益活動: 社会貢献活動、環境活動、公益活動の継続実施 ●環境活動: CSRインパクトを高め、各事業部での取り組みも実施 | ★★★ |
| | 12 | 多様な人材を活用・育成する | 各目標について継続 各目標について継続 | ●多様な人材の活用: 107名(参加率50%) ●多様な人材の育成: 10月に各事業部で実施 ●多様な人材の活用: 10月に各事業部で実施 ●多様な人材の育成: 10月に各事業部で実施 | ★★★ |
| | 13 | 従業員の安全と健康を高め、ワーク・ライフ・バランスの取れた職場環境を確保する | メンタルヘルス研修: 3か年計画1年計画の達成 健康診断: 受診率100% ストレスチェック: 100%実施 労働時間管理: 労働時間管理の徹底による労働時間削減の実施 | ●メンタルヘルス研修: 3か年計画1年計画の達成 ●健康診断: 受診率100% ●ストレスチェック: 100%実施 ●労働時間管理: 労働時間管理の徹底による労働時間削減の実施 | ★★★ |
| | 14 | 人権とプライバシーを守る | 通知、相談窓口の再設と適切な対応 | ●通知: 相談窓口: コンプライアンス研修に含め実施、通知窓口の再設に対応した | ★★★ |
| | 15 | グリーン調達比率の向上を図る | 8%超過を目標にグリーン購入を継続 | ●グリーン調達: 8%超過を目標にグリーン購入を継続 | ★★★ |
| | 16 | 環境への配慮、中核環境目標を達成する | 化学物質排出量の削減: 2020年度までの中核環境目標(フェアシェア)で削減率10%削減を目標 | ●化学物質排出量の削減: 2020年度までの中核環境目標(フェアシェア)で削減率10%削減を目標 | ★★★ |
| | 17 | 健全な経営を向上させ、環境を創出に努める | 経営計画の中期目標達成率: 51.5% 年度末に達した、2015年度は51.5%達成 | ●経営計画の中期目標達成率: 51.5% ●年度末に達した、2015年度は51.5%達成 | ★★☆ |
| | 18 | より豊か、より安全な製品を開発・生産する | 対前年比1%以上のエネルギー削減率を達成 | ●エネルギー削減: 対前年比1%以上の削減率を達成 | ★★☆ |
| | 19 | 持続可能な企業グループとして世界的な成長を確保する | グループ会社を合わせたCSR報告書の作成とこれに基づく評価制度の実施 各事業部のCSR報告書を作成 | ●グループ会社を合わせたCSR報告書の作成とこれに基づく評価制度の実施 ●各事業部のCSR報告書を作成 | ★★★ |
| | 20 | 環境・省エネに取り組む | 反対フェイルド(Failed)を削減 | ●環境・省エネ: 反対フェイルド(Failed)を削減 | ★★☆ |
| 環境・省エネ | 21 | 経済色の軽減する高品質な医薬品を開発する | ジェネリック製剤の開発を進め、低価格を実現 | ●ジェネリック製剤の開発を進め、低価格を実現 | ★★☆ |
| | 22 | 社会貢献を促進した賞状を贈呈する | マレーシア拠点の生産開始、中国・メキシコ・チエコ拠点における生産設備稼働 | ●マレーシア拠点の生産開始、中国・メキシコ・チエコ拠点における生産設備稼働 | ★★☆ |
| | 23 | もとのつく資源の削減による生産工場を維持する | 全社廃棄物の削減に向けた推進、廃棄物削減による生産工場を維持 | ●全社廃棄物の削減に向けた推進、廃棄物削減による生産工場を維持 | ★★☆ |
| | 24 | 継続的に研究テーマを創生・実行する | 新薬に必要としたイノベーション創出センターや各研究部門グループ会社等と連携して、継続的にコア・コンピタンスを創生 | ●新薬に必要としたイノベーション創出センターや各研究部門グループ会社等と連携して、継続的にコア・コンピタンスを創生 | ★★☆ |

※1 SDG: Safety Data Sheet (化学物質安全データシート) ※2 経理: Base Erosion and Profit Shifting (税務回避と利益移転)
 ※3 参考資料: 医薬品H業務上: 日本製薬工業協会公表によると「全製薬で見た場合の2014年度有害事故率(有害事故件数/全製薬件数)は21.0%」

★☆☆の今後の対応について

- ☆☆☆: 安全活動が実際の作業で生じるよう改善を図る。交通事故防止として、新人教育や研修を強化する。
- ☆☆☆: 設備主体の省エネ対策に加え、製造プロセスのムダ取りを進め、廃棄物削減を目指す。

2015年度CSRアクションプランの結果 PDF



PDF形式のファイルをご覧になるためにはAdobe Readerが必要です。
 Adobe Readerをお持ちでない場合は、左のアイコンからダウンロードして下さい。

中期CSRアクションプラン 2016-2018

日本化薬グループでは、2016年4月1日より開始している3カ年中期事業計画 *Take a New Step 2016* と連動させた中期CSRアクションプラン2016-2018を策定しました。「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える」を4つの事業で実現し、持続可能な社会・環境に貢献しながら、いい会社・強い会社を目指します。これは、管理部門を含む各事業部と各連結グループ会社のCSRアクションプランを取りまとめたものです。

| | No | 中期CSRアクションプラン2016-2018 | CSRアクションプラン2016 |
|-----------------|----|---|--|
| 生命と健康を守る | ① | 得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する | 抗がん薬内包高分子ミセルの開発推進 ジェネリック抗がん薬の遅滞ない開発・上市と抗体バイオ後続品の治療提供 |
| | ② | より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する | 国内、海外各拠点での増産体制構築を予定通り遂行し、安全操業をもとに、世界の各地域において高品質な製品を提供 グローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施 |
| | ③ | 研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する | 研究開発の実行及びグループ内の知的財産・技術の連携と融合や社外とのオープンイノベーションの推進により、新製品・新事業を創出 知的財産の創造・保護・活用とグローバル管理体制の確立 |
| 豊かな暮らしを支える | ④ | 低環境負荷・省エネルギーに貢献する機能化学製品を社会に提供する | 低環境負荷・省エネルギーに貢献するエポキシ樹脂や産業用インクジェットで事業展開を推進、アクリル酸製造用高性能触媒の開発・上市 |
| | ⑤ | 市場環境や顧客ニーズに適合した農業を提供し、安定した農業生産に寄与する | 新規殺虫剤の上市に向けた準備の遂行と製剤化技術を活かした工夫製剤の開発、既存剤の適用拡大 |
| 持続可能な社会・環境に貢献する | ⑥ | サプライチェーンマネジメントを推進する | CSR調達への推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正購買を推進 |
| | ⑦ | 製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る | 重大顧客苦情の発生ゼロを継続する活動を引き続き実施（なぜなぜ分析、発生事例の横展開、ヒューマンエラー防止等） セイフティシステムズ事業におけるグローバル品質保証体制の強化 |
| | ⑧ | 省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する | 2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進 エネルギー使用原単位対前年度比1%以上削減の取り組みの推進 |
| | ⑨ | 廃水処理に関する環境保全技術を向上させる | グループ会社を含めた既存廃水処理技術の見直しと新規処理技術の探索 |
| | ⑩ | 地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する | 各地域における工場祭・懇談会・地域清掃活動・ピンクリボン活動・子ども体験型イベント等の実施、「あすなろの家」の維持運営 |
| いい会社・強い会社になる | ⑪ | ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う | ステークホルダーに対する非財務情報の開示充実化、株主・投資家との対話による相互理解の促進 財務情報の適時適切な開示とIFRS*導入に向けての準備 |
| | ⑫ | 人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する | 多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成（女性活躍推進法への対応、グローバル人材育成、製造技術の継承・発展のための教育等） 次世代育成支援対策推進法に則した取り組みの推進（育児・介護の支援、男性の育児参加促進、時間外労働の削減、有給休暇取得率の向上等） |
| | ⑬ | 事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する | 従業員の労働安全衛生へ配慮した健康経営の推進（メンタルヘルス研修の継続実施、ストレスチェックの実施、データヘルス計画の推進等） 事故災害を未然に防止するための活動の継続実施（防災訓練、安全審査、管理者による現場巡視、従業員教育等） グループ各社で「日本化薬グループ2016年度レスポンスブル・ケア方針」に基づく安全衛生活動を推進 |
| | ⑭ | 成長する企業グループとして安定的な収益を確保する | 経営資源の最適配置と資本効率化を図り、収益の向上を目指した事業運営 |
| | ⑮ | 有事においても事業継続性を確保する | 現場に則した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを実施 |
| | ⑯ | グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る | グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施 各国・地域の法令遵守、法改正等への迅速かつ適正な対応 |
| | ⑰ | グループ全体のコーポレートガバナンスの強化を図る | 改正会社法、コーポレートガバナンス・コードに則した施策の推進 内部統制、リスク管理（「Top5リスクコントロール」活動）の継続実施と体制強化、内部監査の実効性の向上とフォローアップ 情報セキュリティ体制を整備し、企業情報管理を強化 |

* IFRS : International Financial Reporting Standards (国際財務報告基準) 国際会計基準審議会 (IASB) によって設定される会計基準

中期CSRアクションプラン 2016-2018 ISO26000対応表

| | No | 中期CSRアクションプラン 2016-2018 | ISO26000との対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----|---|------------------|----------------------|-----------------|-----------|----------------|---------------|----------------|--------------------|----------------------|--------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------------|-----------|----------------|-----------------------|---------------------------|---|
| | | | 組織統治 | 人権 | | | | | | | | 労働慣行 | | | | | 環境 | | | | |
| | | | 課題1:意思決定プロセス及び構造 | 課題1:ステークホルダーエンゲージメント | 課題2:人権に関する危機的状況 | 課題3:加担の回避 | 課題4:苦情解決(※非該当) | 課題5:差別及び社会的弱者 | 課題6:市民的及び政治的権利 | 課題7:経済的・社会的及び文化的権利 | 課題8:労働における基本的原則および権利 | 課題1:雇用及び雇用関係 | 課題2:労働条件及び社会的保護 | 課題3:社会的対話(※非該当) | 課題4:労働における安全衛生 | 課題5:職場における人材育成および訓練 | 課題1:汚染の予防 | 課題2:持続可能な資源の活用 | 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応 | 課題4:環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復 | |
| 健康を守る 生命を守る | 1 | 得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支える 豊かな暮らしを | 4 | 低環境負荷・省エネルギーに貢献する機能化学製品を社会に提供する | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| | 5 | 市場環境や顧客ニーズに適合した農業を提供し、安定した農業生産に寄与する | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ |
| に貢献する 社会・環境 | 6 | サプライチェーンマネジメントを推進する | | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 7 | 製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ |
| | 9 | 廃水処理に関する環境保全技術を向上させる | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ |
| | 10 | 地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| いい会社・強い会社になる | 11 | ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する | | ◎ | ◎ | | | | | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 13 | 事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する | | | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | | | | | |
| | 14 | 成長する企業グループとして安定的な収益を確保する | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 有事においても事業継続性を確保する | ◎ | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | 16 | グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る | ◎ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | 17 | グループ全体のコーポレートガバナンスの強化を図る | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | No | 中期CSRアクションプラン 2016-2018 | ISO26000との対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----|---|--------------|---------------|-----------|--------------------------|------------|-----------------------------------|-----------------|-------------|--------------------------------|----------------------|--------------------------|--------------|----------------|------------|----------------|---------------------|--------------|--------|-----------|
| | | | 公正な事業慣行 | | | | | 消費者課題 | | | | | | | コミュニティ参画及び発展 | | | | | | |
| | | | 課題1:汚職防止 | 課題2:責任ある政治的関与 | 課題3:公正な競争 | 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 | 課題5:財産権の尊重 | 課題1:公正なマーケティング、事実に基づく開示の提供、及び契約慣行 | 課題2:消費者の安全衛生の保護 | 課題3:持続可能な消費 | 課題4:消費者に対するサービス、支援並びに苦情及び紛争の解決 | 課題5:消費者データ保護及びプライバシー | 課題6:不可欠なサービスへのアクセス(※非該当) | 課題7:教育及び意識向上 | 課題1:コミュニティへの参画 | 課題2:教育及び文化 | 課題3:雇用創出及び技能開発 | 課題4:技術の開発及び技術へのアクセス | 課題5:富及び所得の創出 | 課題6:健康 | 課題7:社会的投資 |
| 健康を守る 生命を守る | 1 | 得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支える 豊かな暮らしを | 4 | 低環境負荷・省エネルギーに貢献する機能化学製品を社会に提供する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 市場環境や顧客ニーズに適合した農業を提供し、安定した農業生産に寄与する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| に貢献する 社会・環境 | 6 | サプライチェーンマネジメントを推進する | | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る | | | | ○ | | | | | | | ◎ | | | ○ | | | | | |
| | 8 | 省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 廃水処理に関する環境保全技術を向上させる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| いい会社・強い会社になる | 11 | ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 成長する企業グループとして安定的な収益を確保する | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 有事においても事業継続性を確保する | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 16 | グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | |
| | 17 | グループ全体のコーポレートガバナンスの強化を図る | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | |

Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン2013-2015 評価

<評価の仕方> 十分に目標を達成:★★★ ほぼ目標を達成:★★☆ 実現に向け努力中:★☆☆ 目標未達:☆☆☆

| 分類 | No. | Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン | Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン 2013-2015 の取り組み結果(数値は3年間の延べ回数) | 自己評価 | |
|-------|------|---|--|--|-----|
| 基盤 | 1 | 従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる | <ul style="list-style-type: none"> ● CSR研修: グループ全体で65回1,000人以上が受講 ● コンプライアンス研修: 年度ごとにテーマを変え、グループ全体で166回9,600人が受講 ● 現状把握と具体的な対策のため、コンプライアンス意識調査を毎年実施 | ★★★ | |
| | 2 | 有事発生時においても事業継続性を確保する | <ul style="list-style-type: none"> ● 医薬事業本部、セーフティシステムズ事業本部、アグロ事業部でBCP訓練を実施し、より実効性のあるBCPマニュアルを整備 ● ITマニュアルを整備、ITシステムの免震構造化、仮想化技術導入による可用性、復元性の確保、バックアップの遠隔地保管によるデータの保証等を実現 | ★★☆ | |
| 社会的責任 | 3 | 化学物質に関する規制を遵守する | <ul style="list-style-type: none"> ● 化学物質管理データベース等の仕組みを整備し確実な運用を徹底、繰返しの教育を実施 ● 化学品法規制に関わる重大な違反:ゼロ件 | ★★★ | |
| | 4 | がんとかん関連分野における研究・開発・製品情報提供により社会に貢献し続ける | <ul style="list-style-type: none"> ● マイクロスフィアを2製材上市し、IVR治療の幅を広げ治療の選択肢を広げることに貢献 ● 抗がん薬内包高分子ミセルの開発は順調に進捗 | ★★☆ | |
| | 5 | 従業員の火薬類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底する | <ul style="list-style-type: none"> ● 123人に計画通りに教育を実施し、火薬類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底 | ★★☆ | |
| | 6 | 農業安全使用のための現地指導を継続実施する | <ul style="list-style-type: none"> ● 説明会:各担当者が担当地域で実施、本件に関して誤使用による重大な違反や事故:ゼロ | ★★★ | |
| | 7 | サプライヤーと連携したCSR調達を推進する | <ul style="list-style-type: none"> ● 購買理念・購買基本方針・CSR調達ガイドラインを定めたCSR調達ガイドブックを制定、公開 ● 安定供給、品質確保の観点からサプライヤーと協働の関係を築き取り組みを開始 | ★★★ | |
| | 8 | 重大事故災害による環境影響や労働災害を未然に防止する | <ul style="list-style-type: none"> ● 各事業場における安全教育、リスクアセスメント、ヒヤリハット、指差呼称など種々の取り組みを継続して実施 ● 重大事故災害:ゼロ件、休業災害:6件 | ★★☆ | |
| | 9 | 顧客苦情・品質工程異常を低減する | <ul style="list-style-type: none"> ● 日本化薬版なぜなぜ分析マニュアルを作成、各工場・海外グループ会社へ展開し、現場の職場力を強化 ● 重大クレーム:4件、重大工程異常:4件 | ★★☆ | |
| | 10 | 地域社会とのコミュニケーションを行う | <ul style="list-style-type: none"> ● あすなるの家:毎年100組を超える家族が利用 ● ピンクリボン活動、工場祭、地域懇談会等を継続して開催 ● 教育CSR(イベント型)として、各事業場で地域の子どもたちへ化学実験ショーを実施 | ★★★ | |
| | 11 | ステークホルダーに対して適時適切な情報発信を行う | <ul style="list-style-type: none"> ● アニュアルレポート・CSRレポート・WEBサイトなど必要な情報を適時発信 ● グループ会計方針規程を策定・浸透、IFRS導入検討、移転価格文書化など適正開示と透明性を向上 | ★★☆ | |
| | 12 | 多様な人材を活用・育成する | <ul style="list-style-type: none"> ● 女性活躍推進法施行に伴う、現状の課題分析及び行動計画の策定作業の開始 ● 男女共同参画、非正規労働者(パート・高齢者・派遣労働者)の適正雇用を推進、各種改正労働法令へ対応 ● グローバル人材の交流、育成を推進 | ★★★ | |
| | 13 | 従業員の安全と健康に配慮し、ワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供する | <ul style="list-style-type: none"> ● メンタルヘルス、健康診断の実施と徹底、ストレスチェックの実施体制を整備 ● ワーク・ライフ・バランスに向け、有給休暇取得率向上、時間外労働時間の削減を継続して推進 | ★★☆ | |
| | 14 | 人権とプライバシーを守る | <ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス研修等を通して人権・プライバシーの意識を向上 ● 通報相談制度の周知と浸透を図り 通報相談については、迅速に適切に対応 (グループ全体の認知度:約90%) | ★★★ | |
| | 環境責任 | 15 | グリーン調達比率の向上を図る | <ul style="list-style-type: none"> ● 間接材購買システムの操作性の改善等に取り組み 環境負荷に配慮した間接材の購入金額比率:8%達成 | ★★☆ |
| | | 16 | 環境へ配慮し、中期環境目標を達成する | <ul style="list-style-type: none"> ● 中期環境目標(2020年度)の達成に向け、各事業場での取り組みを継続して実施 ● 一部の項目は未達 (単年データはウェブサイトに開示) | ★★☆ |
| 17 | | 廃水処理技術を向上させ、環境規制に対応する | <ul style="list-style-type: none"> ● 活性汚泥処理の効率アップ、特定重金属除去技術などの廃水処理技術を確立 | ★★☆ | |
| 18 | | より一層のエネルギー低消費型企業を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ点検や省エネ設備導入を計画的に実施 ● エネルギー原単位5年平均で98.3%と削減達成 | ★★☆ | |
| 経済的責任 | 19 | 持続可能な企業グループとして安定的な収益を確保する | <ul style="list-style-type: none"> ● グループ全体へ中長期重点課題制度、これに基づく評価制度を導入 ● BCPに配慮した在庫の適正管理に向けた取り組みを実施 ● 遊休土地を計画的に売却し資産を効率化 | ★★☆ | |
| | 20 | 環境・省エネルギーに貢献する製品を上市する | <ul style="list-style-type: none"> ● 反射フィルム(Freelux)はサングラス用途へ拡販。さらに別用途への展開を推進。 | ★★☆ | |
| | 21 | 経済負担を軽減する高品質な医薬品を提供する | <ul style="list-style-type: none"> ● バイオ後続品2製剤、ジェネリック抗がん薬など、経済負担を軽減する高品質な医薬品を遅滞なく市場に提供 | ★★☆ | |
| | 22 | 独自技術を応用した安価自動車用安全デバイスをグローバルに拡大し、人命保護に貢献する | <ul style="list-style-type: none"> ● 東南アジアを主な市場にした新拠点を設置、既存拠点の能力アップにより、日本化薬のグローバルプレゼンスを強化し、 ● 世界各地の車社会が必要とする安全デバイスの増加要求に対応 | ★★☆ | |
| | 23 | ものづくり技術の継承により生産工場を維持存続する | <ul style="list-style-type: none"> ● 各種発表会、勉強会、各種担当者会議は計画通り実施 ● 熟練社員による生産技術教育を実施し、生産工場としての技術を維持・継承 | ★★☆ | |
| | 24 | 持続的に研究テーマを創生・遂行する | <ul style="list-style-type: none"> ● イノベーション創出研究センターを創設 ●海外グループ会社と協働し2件の共同研究を新規開始 ● 社外との複数の共同研究を推進 | ★★☆ | |

★☆☆の今後の対応について

- 8 ... ★☆☆ 安全諸活動が実際の作業で生きよう指導強化する。交通事故防止として、新人教育や駐車練習を強化する。
- 9 ... ★☆☆ NK版なぜなぜ分析マニュアルを更に浸透させ、重大クレーム・工程異常を未然防止する。海外グループ会社へも展開する。

Challenge 100A! 中期CSRアクションプラン&2015年度 評価

<評価の仕方> 十分に目標を達成:★★★ ほぼ目標を達成:★★☆ 実現に向け努力中:★☆☆ 目標未達:☆☆☆

| 分類 | No. | Challenge 100A! 中期CSRアクションプラン | 2015年度CSRアクションプラン目標 | 2015年度の取り組み結果 | 自己評価 |
|-------|-----|---|---|--|------------|
| 基盤 | 1 | 従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる | グループ会社を含めたコンプライアンス・CSR研修の継続実施 | ●CSR研修:海外グループ会社含め36回558人に実施 さらに受講者が自ら講師となり自職場へCSR研修を展開 ●コンプライアンス研修:国内集合研修を52回2,718人、DVD研修を541人、中国子会社での研修を6回206人に実施 | ★★★ |
| | 2 | 有事発生時においても事業継続性を確保する | 各事業部のBCPマニュアルの見直しを行い、より実効性のあるBCPマニュアルを整備 ITマニュアルに基づく訓練により有事発生時における事業継続性を担保 | 各事業部の整備を完了 ITマニュアルは、情報システム災害対応基準書(初動編・復旧編・維持編)として完成 | ★★★ ★★☆ |
| | 3 | 化学物質に関する規制を遵守する | 化学物質規制に関する社内教育プログラムの充実 各国基準に適合したSDS*によるお客様への情報提供(引き続き各国のGHS導入に確実に対応) | ●化学物質規制に関する社内教育:新入社員/中堅社員/技術部を対象とした教育を実施 ●SDSによる情報提供:米国、中国等の法令、規格への適合を図った | ★★★ |
| 社会的責任 | 4 | がんとかん関連分野における研究・開発・製品情報提供により社会に貢献し続ける | 抗がん薬内包高分子ミセル開発推進 日本初の抗体バイオ後続品治療の提供 | ●抗がん薬内包高分子ミセルの開発は進捗している ●抗体バイオ後続品治療提供は、新たに臨床試験結果の報告を行うなど、医療関係者の理解を深めた | ★★☆ |
| | 5 | 従業員の火災類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底する | 火災安全維持推進チームによる階層別教育プログラム実践 | 講習:初級者は3回20人、中上級者は1回49人に実施 | ★★☆ |
| | 6 | 農業安全使用のための現地指導を継続実施する | 農業安全使用のための現地指導を継続実施 | 説明会:各担当者が担当地域で実施、本件に関して誤使用による重大な違反や事故:ゼロ | ★★★ |
| | 7 | サプライヤーと連携したCSR調達を推進する | サプライヤー向けにウェブサイト等を介してCSR調達実施に向けた啓発を開始、CSR調達運用をグループ会社への展開 | ●CSR調達ガイドブックをウェブサイトに公開 ●グループ会社にCSR調達の取り組みを依頼 | ★★★ |
| | 8 | 重大事故災害による環境影響や労働災害を未然に防止する | 重大事故災害、休業災害、無傷害事故:0件、不休業災害:5件以下、医薬MR業務上及び通勤途上自動車事故率:4%以下 | ●重大事故災害:ゼロ ●作業事故(災害):休業3件、無傷害事故2件、不休業災害5件 ●交通事故:医薬MR業務上*3及び通勤途上自動車事故率16.8% | ★☆☆ |
| | 9 | 顧客苦情・品質工程異常を低減する | 重大顧客クレーム:0件、重大工程異常:0件 なぜなぜ分析の実施による職場力の強化とグループ会社への展開 | ●重大クレーム:ゼロ ●重大工程異常:1件 ●国内工場での「なぜなぜ分析」の活用が進み、中国グループ会社にも展開 | ★★☆ |
| | 10 | 地域社会とのコミュニケーションを行う | 「あすなるの家」を引き続き維持運営 ピンクリボン活動・工場祭・地域との懇談会・地域清掃活動・公開講座の継続実施 | 「あすなるの家」利用家族数:107家族(稼働率56%) ●ピンクリボン活動:10月に各事業場で街頭配布 ●工場祭・地域との懇談会等:予定通り実施 ●教育CSR(イベント型)として、各事業場で地域の子どもたちへ化学実験ショーを実施 | ★★★ |
| | 11 | ステークホルダーに対して適時適切な情報発信を行う | ウェブサイト:掲載内容の充実 投資家:コミュニケーションの充実 社内報:連帯感の醸成 IFRS(国際財務報告基準)導入に向けての準備 BEPS**行動計画(特に移転価格関連)への対応 | ●ウェブサイト:IRサイトを更新、100周年記念サイト開設 ●投資家との対話:株ボラテックでの工場見学会を実施 ●社内報:100周年記念企画を掲載 ●IFRS導入検討プロジェクトを立ち上げ、活動中 ●BEPS対応に向け、情報を収集し、国別報告書(案)を作成 ●中国グループ経理会議で外部講師による移転価格税制講習会を開催 | ★★★ ★★☆ |
| | 12 | 多様な人材を活用・育成する | 各目標については継続、女性管理職登用比率の目標値公表 各目標については継続 | ●障がい者の法定雇用率:1.9%(52人) ●女性管理職登用比率:5.7%(単体・出向者含む) ●女性管理職登用比率目標数値の公表:8.0%(単体・出向者除く2020年度達成目標値) ●海外赴任家族も含めたサポート研修:継続的に随時実施 ●外国人の登用10名(国内・単体) ●外国人研究者のインターンシップ、海外語学留学を実施 | ★★★ ★★★ |
| | 13 | 従業員の安全と健康に配慮し、ワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供する | メンタルヘルス研修:3カ年計画1年目受講計画の達成、健康診断:受診率100% ストレスチェック制度:体制の整備 次世代育成支援対策推進法の趣旨に則り、行動計画の策定・外部公表の実施 | ●メンタルヘルス研修:計画通り実施 ●健康診断の受診率:100% ●ストレスチェック:体制を整備し、ストレスチェック実施要領を制定 ●労働時間管理の徹底:労使による労働時間専門委員会を実施 ●時間外労働時間の削減:一人当たり月平均12.4hr ●次世代育成支援対策:過年度実績及び行動計画をウェブサイトに公開 | ★★★ ★★☆ |
| | 14 | 人権とプライバシーを守る | 通報・相談窓口の周知と適切な対応 | 通報・相談窓口:コンプライアンス研修時に周知を実施、通報相談は適切に対応した | ★★★ |
| 環境責任 | 15 | グリーン調達比率の向上を図る | 8%程度を目標にグリーン購入を継続 | 環境負荷に配慮した間接材の購入金額比率:8% | ★★★ |
| | 16 | 環境へ配慮し、中期環境目標を達成する | 化学物質排出量の削減:2020年度までの中期環境目標(ウェブサイトで詳細報告)達成に向けた取り組みの継続 | 各事業場で取り組みを継続実施、データは本冊子(P21)、ウェブサイトに開示 | ★★☆ |
| | 17 | 廃水処理技術を向上させ、環境規制に対応する | 現在進行中の廃水処理検討テーマは2015年度末に完了、以降は次のテーマへ挑戦 | ●廃水中の重金属除去技術に関しては、技術確立 ●工場の既存テーマについてはほぼ終了し、設備計画も立案済み ●新たな脱色法に関して、実設備での検証実験中 | ★★☆ |
| | 18 | より一層のエネルギー低消費型企業を目指す | 対前年比1%以上のエネルギー原単位改善を継続 | ●省エネ点検を計画的に実施 ●新規省エネ設備の調査、導入指導を推進 ●エネルギー使用量:前年比1.5%削減 ●エネルギー原単位:前年比103.5%と悪化 | ★★☆ |
| 経済的責任 | 19 | 持続可能な企業グループとして安定的な収益を確保する | グループ会社中長期重点課題制度の浸透とこれに基づく評価制度の実施 在庫量の適正化へ向け全社で取組、遊休不動産の計画的売却 | ●全てのグループ会社に対して中長期重点課題制度を実施 ●これに基づく評価制度を対象となるグループ会社で実施 ●適正在庫に向けて各部で取組みを実施 ●東京事業所の遊休土地を売却 | ★★★ ★★☆ |
| | 20 | 環境・省エネルギーに貢献する製品を上市する | 反射フィルム(Freelux)を拡販 | サングラス用途に拡販し、さらに別用途への展開も進めている | ★★☆ |
| | 21 | 経済負担を軽減する高品質な医薬品を提供する | ジェネリック抗がん薬の運滞ない上市 | ジェネリック抗がん薬を4品目上市 | ★★☆ |
| | 22 | 独自技術を応用した安価自動車用安全デバイスをグローバルに拡大し、人命保護に貢献する | マレーシア拠点の生産開始、中国・メキシコ・チェコ拠点における生産設備増強 | マレーシア拠点は予定通り生産開始し、その他の拠点は、順調に各生産設備の準備を進めた | ★★☆ |
| | 23 | ものづくり技術の継承により生産工場を維持・存続する | 全社発表会のグローバル対応推進、発表会等による情報共有推進、若手教育プログラムの計画的実施 | ●各種発表会は計画通り実施 ●日本化学独自の小集団活動を継続し、改善活動&人材育成を展開 ●熟練社員による生産技術教育を計画通り実施 | ★★☆ |
| | 24 | 持続的に研究テーマを創生・遂行する | 新規に創設したイノベーション創出研究センターや各研究部署(グループ会社含む)と連携して、継続的にコーポレート研究テーマを創出 | ●コーポレート研究テーマ2件を新規立上げ ●海外グループ会社との協業テーマ1件を開始 | ★★☆ |

*1 SDS: Safety Data Sheet (化学物質安全性データシート) *2 BEPS: Base Erosion and Profit Shifting (税源浸食と利益移転)
*3 参考資料 医薬MR業務上:日本製薬工業協会公表によると「全車両で見た場合の2014年度有責事故率(有責事故件数/全車両台数)は21.0%」

★☆☆の今後の対応について

- 8 ... ★☆☆ 安全諸活動が実際の作業で生きるよう指導強化する。交通事故防止として、新人教育や駐車練習を強化する。
- 18 ... ★☆☆ 設備面主体の省エネ点検に加え、製造プロセスのムダ取りを進め、原単位改善を目指す。